

## 議員特別研修実施報告書

報告議員名	加藤 雄太	報告日	令和8年3月31日
調査研究・研修等 名 称	財政のプロから学ぶ基礎研修		
実 施 日	令和8年3月24日、25日（東京海上実施日）		
会 場	在宅研修（紙資料とUSBメモリ活用）		
調査研究・研修等の 概 要	<p>財政の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体財政の基本ルール</li> <li>・財政課がしていること</li> <li>・予算決算の流れ、国と地方の関係</li> </ul> <p>歳入の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歳入の基本</li> <li>・地方交付税の解説</li> <li>・起債の仕組み、ふるさと納税と自治体財政</li> </ul> <p>歳出の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の作り方</li> <li>・財政課の査定から学ぶ</li> <li>・歳出削減策</li> <li>・やりたい事業はたくさんある</li> </ul> <p>財政危機の基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に財政危機なのか</li> <li>・人件費の一律カットは愚策</li> <li>・財政の無理解が勘違いを生む</li> </ul>		
調査研究・研修等の 成果と感想	<p>実際に現地で受講したかったものの、どうしても日程が確保出来ず初めてデータ等を取り寄せての在宅研修となった。</p> <p>昨年に引き続いて財政についての研修であったが、今回の講師は福岡市の元財政課長という事もあり、財政課の内情に触れながら財政の基礎について話が進んだ。</p> <p>よく耳にする「財政が厳しい」という言葉は、一般財源から経常的経費を引いた後に残る、「政策的経費（重要施策の推進や新たな課題の対応に要する経費）」の減少にあり、新たに「やめる」という政策決定をしない限り、かかるコストの増加が継続し、新たな政策に</p>		

投じるお金が無くなることを意味するとの見解であった。

歳出については、未来の市民の立場に立ち、可能な限りの予測を基とした政策の決定が必要であるとのことであったが、私としては未来だけではなく、現在と未来のバランスが一番重要な部分であり、それこそが議員が示すべき賛否に表れる政治的判断なのではないかと、話を聞きながら思いを巡らせたところであった。

最後に自治体職員が果たすべき役割として、市民が行政運営に関する基礎的な情報を把握していることが、当たり前の状態を作ることが求められるとのことだった。分からないからこそどうしようもない公約を掲げる首長や議員がまかり通り、そして気付かぬ内に行政の停滞や財政危機という形で、その報いを受けてしまっているのも同じ市民であることは、大変残念で不幸なことです。

その中で議員は、市民を代位して議論を代行するものとして自覚を持ち、「市民の行政リテラシー向上→より良い行政」の為に、行政と市民を繋ぐことに尽力することが求められることを学んだ。

※1調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

※2調査研究・研修等に要した費用の支出を証する書類を添付してください。